

栄光

『命にいたる道』

詩編16編8節～11節
使徒言行録2章22節～28節

岸 俊彦

説教……………1
特集・感謝の気持ち を忘れない……………2
80周年委員会 報告……………5
教区総会報告……………5
語り継ぐ80年の歩み 「牧師の交代」……………6
伝道師のメモ帳……………7
牧師の書斎から……………7
長老のファイル……………8

説教

「イスラエルの人たち、これから話すことを聞いてください」使徒2・22)と、ペトロは名指して

呼びかけました。キリストを十字架に磔にした罪は、イスラエルの人たちにあることをはつきりとさせるためです(2・23)。断罪するためでしょうか。ペトロをはじめとする12使徒もイスラエル人でした。キリストが祈り選んでくださった12使徒です。キリストを裏切った自分たちを、ペトロは除外して語っているのでしょうか。私たちはどうでしょう。

ペトロは、ナザレの人イエスの生涯とその活動を要約して、奇跡と不思議な業と徴について語りました。唯一の神がナザレのイエスを遣わされたことを証明するためでした。この御方こそ神の救いの

いたる道があります。「主イエス・キリストの御名を呼び求める者は、皆救われる」(使徒2・21)のです。ダビデは主なる神に信頼して生きるキリストの幸いを預言しまし

た。「主(なる神)こそ我(キリスト)が幸い」(詩16・2)。共に歩み、生き、信頼するからこそ、願い祈り求めます。一番苦しい時にこそ、一番信頼する方に願い祈ります。「わたし(キリスト)の心が楽しみ、わたしの舌が喜びたたえ、わたしの体を希望の上にとどまらせてくださる」(詩16・9)主なる神への信頼はゆるぎません。十字架の死の苦しみの時にも、主はわたしの前にいてくださり、またわたしの右にいてくださるから、わたしは動かされることがありません(詩110・1)。

主なる神がどうしてキリストを、その命を、魂を、死者の国である陰府に捨てておくようなことをなさるでしょう。キリストを朽ち果てるままにしておかれることがありえまじょうか。わたしの思い、わたしの心を、しっかりと捉えてくださり、励まし、癒やし、論じてくださるのは、生涯を共に歩んでくださる主なる神です。

死は確実です。私たち誰もがやがて朽ち果てることでしょう。死に対する不安と恐れから私たちが免れることはできないでしょう。だからこそ十字架に磔になったキリストをしっかりと見るのです。キリストの御言葉に聞くのです。主なる神を信じ、御心に委ね、御心に生きたキリストは、豊かな喜びと平安に満たされ、天に召されました。十字架の死の苦しみから、神が解放してくださいました。そして復活させてくださいました。死から復活への道こそ、まことの命の道です。主なる神を信じ、主なる神と共に生きられ、この地上を喜びと賛美をもって歩み抜かれたキリストがこの道を開いてくださいました。

神の光の届かない死者の国である陰府にまで、キリストによってまことの光は差し込みました。この地上の生涯を共に歩んでくださる主なる神は、私たちが死んでも共にいてくださいます。キリストを信じ、主イエス・キリストの御名によって祈る者をも、死の不安や恐れ、その苦しみから解放してくださいます。

計画と必然とを証しする唯一の御方です。それにもかかわらずキリストは十字架に磔にされました。驚かされるのは、実はキリストの十字架の死は神の定められた計画だったとペトロが語ったことです。キリストの十字架は、死に勝利し、命にいたる道を私たちに示すための神の救いの計画と必然だとペトロは語りました(2・24)。

この神の計画と必然について預言した人物がいます。キリストからさかのぼること千年、イスラエルの王ダビデです。ダビデがキリストの生涯、その十字架の死と復活、昇天について預言していました。詩編16編です。ダビデが預言したキリストの生涯から、神の計画と必然が見えてきます。キリストの生涯に私たちの進むべき命に

感謝の気持ちを 忘れない

熊本地震で被害に遭った子供たちが久しぶりに登校して、
友達と再会している笑顔の姿が映し出され、私たちも少し明るい気持ちになりました。
「こうしてまた普通に通えて嬉しい」と言う彼らの言葉に
当たり前で過ごせる毎日のありがたさを感じます。
私たちが感謝すべき毎日とは、どのような日々なのでしょう。

神様のお恵に感謝

石原芳江

若葉がめきめき繁り小さな庭は
いつしか森となる一方、やわらかな初夏の陽ざしに紫陽花が色とり
どり咲き、嬉しい季節である。庭
の片隅では純白のくちなしの花が
青空に映え、清々しく咲き出した。

昨年の秋、思いがけず大腿骨骨
折で入院した。「舞ちゃん(長男の
娘)とプーケットに行つて来たら」
との次男の薦めで、プノンペンで
スポーツ教師をしている孫娘と彼
女の友人にプーケットで合流する
ため羽田に向かう早朝である。日
頃まあまあ健康で過ごしていた私
は謙虚さを欠き、手荷物が増え
えバランスを失つたためか、自宅
の門口を出た途端、振り返つてあ
つという間の出来事であった。
病院では検査の後、5階の病室
で主治医ほか看護師、リハビリの
先生を迎え、4日後の手術が申し
渡された。手術の前日、ベテラン
の看護師さんの静かで細やかな説

明に安心して眼を閉じていると、
長男がイタリーの友人達と現われ、
ロバートさんは温かくささやくよ
うな声で「この体験はあなたの
の宝になる」と諭された。

病院は東西に長い廊下があり、
遠くに新宿の高層ビルを望む東の
窓からは荘厳の日の出を迎える一
方、西の広い窓からは刻々と移り
変わる美しい夕日に感動する日々
であった。看護師さん達は、優し
い笑顔で辛抱強く患者を支える頼
もしいプロ集団であるとおづく
思う。その頃友人とベルギー、オ
ランダの旅に出た孫息子はブリュ
ッセルを拠点にユーレールレンタ
カーで夏休みを楽しみ、帰宅して
すぐ私の入院を聞き、驚いて反っ
くり返つたとか。私のパソコンに
彼が入れた数々の写真を眺めてい
ると、40数年前3年余り駐在して
いたブリュッセルの当時の住処
は、今も変わらぬたたずまいであ
る。すっかり成長した孫息子の優
しさ、家族の有難さを感じる。
九州の大震災では今なお困難な
状況におかれている多くの方々の
上に、一日も早い平穏な日々をど
切に切に祈り上げます。

感謝の日々

大久保恭子

この原稿の締切りの翌日は父の
 召天記念日です。毎年6月には、
 その頃のことを思い出し過ごしま
 す。父は「感謝をしなさい」とよ
 く言っていました。この言葉は愛
 妻家であつた父ゆえ、母へ、とい
 うものでしたが、こう言われると
 反発心ばかりが募り、感謝の気持
 ちを持つことはできませんでした。
 小学校教員になつた年に父は亡
 くなり、5年後に結婚してからも、
 それまでと同様に仕事に全力を取
 り組み、家庭にも精力を注いでい
 ました。振り返りますと、一生懸
 命している、という想いが強く、
 この時も感謝の気持ちはなかつた
 と最近よく思います。それから6
 年後に退職しましたが、仕事を辞
 めずにいたら感謝の気持ちが生ま
 れなかつたと思うと怖ろしくなり
 ます。

辞めて13年経ちますが、初めの

3年は祖母との蜜月な日々、その

後受洗、今は俳句、書、料理、ラ
 ンニングと豊かな日々を過ごして
 います。ほとんどの時間が自由に
 使える今、こんな贅沢はないと思
 つています。世の中の人々は働き、
 辛い想いもたくさんしている中、
 私は義務がなく、したいことばか
 り、これでいいのかと心配になり
 ます。ですのでこの生活をさせて
 くれる主人に、いつも感謝して
 います。家事も好きですから、
 家のことは何でも精一杯、丁寧
 と思つています。

当然のことですが、優しくなり
 なさいと言われて、優しくなれる
 わけではないのと同じで、感謝の
 気持ちは自分の中から自然と湧く
 ものです。こんな生活ですから、
 私は最近、日々感謝の想いを強く
 持つて過ごしていましたら、上野
 先生からの原稿依頼、特別な6月
 に常日頃感じている内容のご依頼
 で、ご計画を感じました。

どんなことにもありがたいと思
 えることは幸せだと思えます。父
 が蒔いた感謝の想いが、祖母との
 時を経て、いつの間にか私にも生
 まれていたこと、本当に感謝です。

不思議な体験

佐々木慶太郎

3年前の4月9日の午後、西新
 井大師の境内にある池の畔でくつ
 ろぐ私に、70代と思しきマスクの
 女性が話しかけて来ました。「親
 戚筋の資産家に嫁いだ。旦那に
 なつたその家の息子が大変な道楽
 者で、家に寄りつかず、舅が築い
 た財産を殆ど無くしてしまつた。
 今は二人共あの世に行つたが、姑
 も息子とぐるになつて、悪いこと
 は全てお前のせいだと言いつつた
 ので、結婚前は上がつていた口角
 が落ちてしまつた。みつともない
 のでマスクをしている」とマスク
 を外して見せました。口角と聞い
 て永島先生の発声講習を思い浮か
 べました。「口角を上げて歌わな
 いと響く声は出ない。それには異
 常に思える程目を見張りなさい」
 と先生は言われます。「物事には
 裏表が有り、一方が全て正しいと
 か間違つているということはある

ません。少なくとも迫害で歪んだ
 あなたの顔を見て、それが商売を
 駄目にするとか、旦那を一層家に
 寄り付かせ難くするなどはあつた
 でしょう。過去は取戻せません。
 残された人生を幸せに過ごすに
 は、うそでも幸せだという顔をし、
 幸せだと言いつけることです。人
 は自らの言動に縛られます。やが
 て本当の幸せが訪れるでしょう」
 と私は応えました。

予定のなかつた日でした。好天
 がもつたいたので、用も無いの
 に、気になつていた日暮里舎人ラ
 イナーに乗ってみました。まず訪
 れたのが終点の見沼代親水公園。
 足立区のどん詰まり、すぐ先は埼
 玉県です。次に水鳥の飛来する池
 のある広大な舎人公園を散策し、
 最後が、最寄りと言つには遠過ぎ
 る西新井大師西駅から延々歩いて
 辿りついたこの場所でした。快い
 疲労が心の壁を低くしたかも知れ
 ません。「御免なさい、こんなこ
 と言つて」の私の常套句を頭に付
 けて助言が出来、「話して楽になつ
 た」と彼女も喜んでくれました。
 場所はお寺でも、これも教会生活
 の賜物です。神様に感謝。

主に感謝する日

杉浦花子

教会の「栄光」に今の気持ちを何か書くようにと、上野先生からお電話をいただきました。

北海道の函館市に生まれ、中学2年になるまで広々とした北国の自然を謳歌して過ごしました。今まで大きな病気もせずに来ました。今のは、この美しい自然の中で過ごすことが出来たおかげと感謝しております。兄二人、姉二人、妹二人の5番目の娘として生まれましたがこれで弟一人がいたら完璧なのにといつも思っていました。上の姉が弾くオルガンの周りに集まって皆で歌うのが楽しかったです。子供讚美歌も歌っていました。主のお導きで受洗して、経堂北教会の会員となって数十年が経ちますが、現在は息子に車で送り迎えをしていますが、私を教会に送り迎えました夫も、私を教会に送り迎えているうちに、教会員となり

熱心に教会生活を過ごし召されましたので、息子もそのようにと、祈っています。

時間があるとよく、近くの自由が丘の駅まで歩き、本屋さんに立ち寄り、お気に入りの本があると買っています。最近「火花」という本を買いましたが、これは芥川賞を受賞しました。まだ読み始めたばかりでどこが受賞に値したのか、これからゆっくり味わいたいと思います。本と言えば、夫が存命中によく銀座の教文館に行き、キリスト教に関する本を買いました。夫は受洗後、熱心にいろいろな本を読んでキリスト教を学んでいました。

今、道を歩いていますと、美しいあじさいの花をあらこちらで見かけます。あじさいの花が好きでした夫に見せたいとフト思ってしまった。私の友人が娘の結婚式に詠まれた句、

今日をことほぐ

藍より青きあじさいと

彼女は今、関西で俳句の指導者として活躍中です。

神様がともにいて下さる

林崎光子

5月5日に、最初の勤め先だったバット博士記念ホーム(養護施設)で、60周年大同窓会の催しがあり参加した。45年ぶりに再会した子供達はもう50〜60歳になり、定年後の事を考える年齢になっていた。その中の一人が「私のアルバムがちゃんと保管してあって、今返してもらった!」と持ってきた。そのアルバムを見ながら、皆でいろいろな思い出を語った。「私達大事にされていたんだね。今の自分があることを感謝している」との言葉があり、うれしかった。あの頃は、子供たちの将来も、自分がこれからどうなるかも、まるでわかっていなかった。幼児から中学生まで、男女8人の縦割り小舎制だったので、毎日食事を作り、洗濯をして、けんかの仲裁をして、その日を無事に乗り越えることで精いっぱいだった。振り返ってみ

た時に初めて、自分がどんなに神様に守られ、進む道を備えられていたかに気づく。

私は、もともと小心者で、くよくよ思い悩むことが多い。先の事ばかり気にするので「サキザキさん」等と呼ばれてしまう。どんなにがんばっても、自分に出来ることはたかが知れている。「神様、助けてください。私の足りないところにあなたが入って、埋めてください」と祈るしかない。近頃思うのは、祈りはその時は全然叶えられなくても、何年か後に「ああ、こういうことだったのか」と違う形で叶えられていることが多い。

近頃私の周りには、本人が、あるいは家族が癌になって苦しんでいる友がいる。「神様、〇〇さんが辛い時にいつも共にいてください。少しでも楽に穏やかにいられますように。」と毎晩祈っている。私もいつまで元気で過ごせるかわからないが、最後まで誰かの役に立てる自分でありたいと思う。日々を神に感謝して穏やかに暮らし、たとえ身体が動かなくなっても、周りの人のために祈り続けられるようにと願っている。

80周年委員会報告

いよいよ来年、経堂北教会は創立80周年を迎えます。その準備として両教師、長老5名（現任1名、終身長老4名）による教会創立80周年記念委員会が立ち上がり、第1回委員会が5月5日曜日に開かれました。メンバーは岸俊彦牧師、上野峻一伝道師、永井清陽終身長老、中西泉終身長老、岡田みな子終身長老、照内真知子長老、そして私、大西順終身長老（今年度は1年長老お休みの年のため）が委員長役を担います。

過去の60周年、70周年に行われた記念行事を参考にしながら、現状の経堂北教会が行える80周年の行事は何かという観点から自由にディスカッションが行われ、8項目に渡り、内容についての方向性が確認されました。

1. 80周年文集の制作 永井終身長老ならびに沢田寛子長老を中心に、栄光にて連載中の文章から「80周年の歩み」と題して文集を制作する。

2. 80周年写真集 長年経堂北教会に來会されている方々を中心に

お声掛けし、創立当時からの流れで写真集を作成する。

3. 80周年動画スライドショー 長老会での議論を経て、会員から得た懐かしい写真をもとに動画スライドショーを作成する。

4. 80周年記念教会音楽コンサート 2017年5月を目的に開催する。歴代教会コンサート出演者の中から80周年記念音楽コンサートに相応しい方をお願いしたい。

5. 80周年記念礼拝・愛餐会・聖歌隊コーラス・打楽器コンサート 子供から大人まで教会全体が参加できる記念イベントを開催する。

6. 80周年記念伝道講演会 著名な方を特別伝道講演会の講師としてお呼びしたい。

7. 外部説教者の依頼 60周年、70周年には外部教職をお呼びして集会を行った。80周年については継続協議する。

8. 予算規模 過去と同等の150万円規模とすることを検討する。これらの内容が話し合われています。どうぞご期待ください。

（大西 順）

教区総会報告

2016年度教区総会が5月31日、昨年と同様に富士見町教会で開催されました。出席者は岸先生、永井清陽兄、私の3名。

午前10時、物井恵一兄（小松川教会）司式で開会礼拝が開始。開会時、368名の出席者による賛美の歌声は力強いものでした。木下宣世先生（西千葉教会）の説教「教会の外に出て語る」では、キリスト教に全く縁のない人たちの中にあって福音を伝える積極性と勇気を改めて示されました。礼拝の中では2015年度に逝去された先生方、四籠揚先生を含む4名の先生のお名前が読み上げられ、その働きを覚えて祈りがささげられました。

礼拝後に行われた総会は、議長が岸先生ということもあり、どこか経堂北教会と似た雰囲気。やはり選挙が重要な案件で、時間もかかります。まず常置委員の半数10名を改選。そのあと教区選出教団総会議員34名の選挙、それから第二選挙として支区別に20名を選出。人数が多いので書くだけでも

大変。選挙管理委員はさぞ大変だったことでしょう。受付その他様々な準備をしてくださった多くの方々に感謝です。常置委員には永井清陽兄が、総会議員には岸先生と永井兄が選出されました。

永井兄は中越地震以来ずっと常置委員として、震災にあった地域の教会の支援のために責任を負ってこられました。東日本大震災支援のための募金が昨年3月に終了したばかりで、また大分、熊本に地震が起こり、私たちは実に災害の多い国に住んでいるのだと改めて思いました。

5支区、237の教会、伝道所の代表者が集まる総会に出席して、教会の連帯の大切さを実感した1日でした。

（持田滋子）



語り継ぐ 80年の歩み

(5)

「牧師の交代」

村田徳子

1943年
大阪・扇町教会で受洗。
1954年経堂北教会へ転会。
故村田望兄夫人。

会社勤めを定年前に退職し、牧

者となった村田正亮牧師が、自宅を開放して誕生したのが経堂北教会であり、6年後に購入した初の会堂は、村田家と道を挟んだ真向かいの長谷川家の一部。長谷川美世子姉（岡田みな子姉母）は、初代長老（当時は委員と呼んだ）5人の1人、初代オルガニストの1人だった。徳子姉は、結婚5年目に牧師の家族、教会の隣人としての暮らしを始めた。

「父（正亮牧師）は勉強家で、いつも夜遅くまで漢詩の勉強をしていた。朝も早く6時に起きて、私ができる前に掃除をしてくれるので参った」そうだ。「ヒマラヤ杉に囲まれた会堂の一室で、いつも遅くまで話し合っていた長老会の情景が忘れられない」と徳子姉は述懐

する。

村田牧師は、教会発足16年後の1953年（昭28）、十時英二伝道師を迎え、初めて2人体制となった。村田牧師が70代間近となったこともあるが、それより戦後のキリスト教ブームで、若者の教会出席が急増したことが背景にある。47年（昭22）、66人だった現任陪餐会員は、6年後の53年、2倍強の146人、不在・未陪餐会員を入れると193人に達していた。十時伝道師は就任2年後の55年、開拓伝道の志から辞任し、千歳船橋の幼稚園での礼拝を開始し、千歳丘教会につながる。

十時伝道師辞任後、村田牧師単独体制に戻ったが、3年後の58年、四竈揚伝道師が、教会2人目の伝道師として着任した。四竈伝道師

26歳、独身。伝道師任期満了の60年3月、加藤恭子姉と結婚した。「恭子さんは小学生のころから教会に通っていて、オルガニストも務めていた。このころ、教会内で結婚が相次いだ。若々しい経堂北教会らしく、牧師、会員の結婚が相次ぎ、それぞれが長老や青年会、婦人会の中心として活躍してくれ

た」と徳子姉が、懐かしげに数え上げてくれたカップルは、十時英二・久枝、四竈揚・恭子の牧師夫妻、会員同士で川戸龍夫・好子夫妻、寺田恵一・恵子夫妻と、会員平均年齢の若かった60年代前半を象徴している。

63年、村田牧師が主任担任教師を辞任し、四竈牧師が主任担任教師となった。9年後の72年、村田正亮牧師は、担任教師を辞任して35年の教会生活を終え、80年、94歳で天に召された。村田牧師隠退後の73年、倉橋康夫伝道師が着任し2年後転任。76年、着任した大沢秀夫伝道師は、百合丘伝道に専念することとなり、83年、教会6代目の担任教師として、岸俊彦伝道師が着任した。四竈牧師は、2002年、39年間の主任牧師を

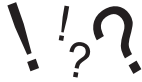
辞して千代田教会に移り、岸俊彦牧師が、教会3代目の主任牧師に就任した。

長老会は、この交代に備えて、「担任教師（副牧師）は、神学校新卒者を迎え、任期は牧師昇格試験までの3年間とする」方針を定めた。順調に教勢を伸ばして来た東京教区の教会として、「東京神学大学の新卒者を、伝道師に迎え、牧師として送り出す」役割を担おう、という決意である。これに従って2001年、田邊優子伝道師を迎えた。田邊伝道師は、出産のため任期が1年伸びたが、以来、鈴木賛美伝道師、片岡宝子伝道師、久保哲哉伝道師と続き、2014年、教会11代目の担任教師、上野峻一伝道師を迎えた。四竈揚・恭子牧師夫妻は、2016年、相次いで召天した。（永井清陽）



左から横河ささ姉、村田正亮牧師、土橋亀代姉

個人消息



長老のファイル



2016年度長老会の新体制となつて、はや3カ月が経ちました。今年度の長老は、12名中10名が女性です。もともと教会員は女性の方が多いので当たり前のことなのですが、聖餐具を運ぶのに少し苦労したりしています。

礼拝の式順を新たにしてから1年が経ち、神の招き、神の言葉、感謝の応答、派遣という礼拝の流れをスムーズに進められるように

なつたのではないのでしょうか。特に、讃美歌を5回歌うようになり、礼拝の度に賛美の大切さを感じています。

6月26日の「初夏の集い」では、長山道東京神学大学准教授をお招きし、「復活のキリストを宣べ伝える」をテーマに、伝道についてお話ししていただきました。少しずつ、若い世代の出席者が増えて

いるのはうれしいことです。上野先生のお声がけにより、大學生の礼拝出席者が増えてきて、今年度の教会学校では学生科を新

設しました。最初は点だったものが線となり、休眠状態だった青年会が定期的に開かれています。本当に感謝です。今の活気を見ると、20年以上前の自分の青年会時代を思い出します。瑣末な悩みでも当時は悩んで、仲間たちに相談したり議論したりしました。また、共に祈ることで支えられもしました。当時の仲間たちとは時を経て

もつながっています。青年会の皆さんも、共に祈りあえるこの時間を大切にしたいと思います。そして、上野先生が正教師として派遣された後もこの活気が失われたいように、サポートしていきたいと思えます。

編集後記



▽沢田長老に代わり、久しぶりの栄光編集委員会。ベテラン?委員の方々にすっかり助けていただきました。(尾藤美)

「栄 光」2016年7月号
 日本基督教団 経堂北教会
 〒156-0051 東京都世田谷区宮坂3-21-11
 電話：03-3428-5029 / FAX：03-3428-5038
 牧師：岸 俊彦 伝道師：上野峻一
 編集：栄光編集委員会
 Email：kyodon@mb.infoweb.ne.jp
 HP：http://homepage2.nifty.com
 Kyo-doKitaChurch

(酒井由紀子)